

1 これまで3年間（H20～22年度）の取り組みについて

1 児童・生徒の状況

(1) 学習事項の定着（学力）について

（成果）

H20年度からH22年度の全国学力・学習状況調査によると、

- すべての区分において、平均正答率が全国平均と比較して向上しており、全体の学力向上が一定図れた。
- 学力低位層（正答率40%以下の児童）の割合についても、2年間で減少させることができた。とりわけ、国語・算数ともA問題については、低位層の児童の割合が大幅に減っており、「基礎・基本」が定着できてきたと考えられる。
- これらは、H20年度の学力・学習状況調査の分析が、全校児童の実態の把握・分析に繋がり、その結果、全学年児童の課題が明確となり、課題解決に向けた取り組みが、全教職員理解の下に進められたことによる成果と考えられる。

（課題）

- 算数B問題については、割合としては少なくなっているもののまだまだ低位層が多く、ゆるやかな二極化傾向を示しており、活用力、応用力に課題を残す結果となっている。
- 無回答率が減っては来ているが、全国平均を上回る設問もあり（とりわけ、B問題）、活用力等の向上が課題である。

(2) 「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」の育成について

（成果）

H20年度～22年度の全国学力・学習状況調査によると

- 「ゆめ力」・・・「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」等の設問で、全国平均を上回る結果となっている。自尊感情や達成感が高まり、将来の夢を抱き、目標に向けて挑戦しようとする子どもたちの姿が見られる。
- 「自分力」・・・「毎日同じ時刻に起きている」「学校のきまりを守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」の設問で、全国平均を上回る結果となっている。あいさつや話を聞くこと、チャイム着席等、規範意識や自分をコントロールする力が育ってきている。
- 「つながり力」・・・「友達との約束を守る」「人が困っているときは、進んで助ける」「近所の人にあったときにあいさつする」「人の役にたつ人間になりたいと思う」の設問で、全国平均を上回る。地域のボランティアの方々のお力を借りながら、また、児童会のあいさつ運動等の取り組み、人権教育での集団づくりの取り組み、支援教育での人間関係づくりの取り組み等の成果であると考えられる。
- 「学び力」・・・「学校で友だちに会うのは楽しい」「国語の授業の内容はよくわかる」「算数の授業の内容はよくわかる」の設問で、全国平均を上回る。「白川スタンダード教職員編」等での「だれもがわかる授業づくり」の取り組みや、研究授業等をおとした、授業力向上の取り組みの成果であると考えられる。

（課題）

- 「ゆめ力」・・・「国語・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」の設問については、全国平均より低いところにとどまっている。将来の夢を実現するために、学校の勉強が役立つという認識が薄い。勉強することが「生きる力」に結びつく実感をもてるような学習課題の設定や、教科と生活を結ぶ学習活動を意識し、多くの出会いや経験を増やす取り組みを進め、夢や希望を実現するための展望を持たせていく必要がある。
- 「自分力」・・・「朝食を毎日食べている」の設問では、全国平均を下回る。全校の「生活振り返りカード」でも、朝食を食べない、就寝時間の遅い、家庭学習が定着しない、家庭読書の少なさ、テレビやゲームの時間等、課題が明らかにな

っている。家庭への積極的なはたらきかけが必要である。

- 「つながり力」・・・友だちや教職員、家族や地域の人との「つながり」を深めようとする意識は育ってきているが、言葉の暴力やコミュニケーション力の未成熟さゆえのトラブルも多々ある。今後も、「集団づくり」「人間関係づくり」の取り組みに力を入れ、「だれもが楽しいと思える学校づくり」を目指していきたい。
- 「学び力」・・・「学校で好きな授業がある」の設問では、全国平均を下回る。子どもたちの学ぶ意欲につながる「楽しくて、わかる授業」の追求は、今後とも強めていかなければならない。まちがいを大事にし、安心して発表・発言できる授業づくり、「わかった」という達成感がどの子にも感じられる授業づくりを進めていきたい。

2

学校の取り組み

(成果)

H20年の学力学習状況調査の分析より、全校児童の課題の把握、組織的に取り組んでいく話し合いが始まった。各学年で分析したものを努力目標推進委員会が中心となりまとめ、各校内組織で具体的な取り組みを計画して進めてきた。その結果、職員の共通理解の下、学力・「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」の向上に一定の前進が見られた。

努力目標推進委員会→児童の生活習慣や、学習規律の向上をねらった【白川小スタンダード】、また3研究部会（教科研究部、人権教育研究部、支援教育委員会）の研究を束ね、「子ども一人ひとりが安心して学び、高めあえる学習集団をつくる」ための【教職員編 白川小スタンダード】を策定、実施した。また保護者とも連携して進め取り組みを進めるため『白川小学校だより』を発行した。生活規律や学習規律を明確にし、授業の土台をそろえることで、若年教職員が自信を持って授業や学級経営に取り組んでいる。

教科研究部→ また、火曜日の朝学習を『朝ピカタイム』とし、自ら学ぶスタイルのプリント学習を全校で行った。結果、基礎・基本の定着が図られた。

「国語科」の授業研究を行ってきた。昨年度は、説明文の「構造読み」をテーマに学年の段階に応じた「読み」について、授業をとおして研究を重ねてきた。教員の授業力が向上し、授業が活性化した。また、子ども達の読む力が増し、その成果が学力の向上に結びついたと考えられる。また、「話す・聞く」力の育成やノート指導についても研究を進めてきた。

人権教育研究部→ 「つながり力」育成、「たがいを認め、支えあい、ともに高めあう集団」づくりを行ってきた。各学級での実践を交流しあい、それが、学習集団としての高まりにもつながってきた。また、『生活振り返りカード』を実施し、児童自身の生活を見直すきっかけにしている。家庭を巻き込んだ生活規律の確立に役立っている。

支援教育委員会→ 『人間関係づくり』と『授業づくり』を柱に、一人ひとりのニーズにあった支援やユニバーサルデザインの授業の取り組みを行ってきた。個別に支援が必要な児童には、手立てを考え、複数体制での指導を行った。取り組みの中で、子どもたちの自尊感情が高まり、安心できる居場所の確保が図られ、学習意欲に結びついている。

※努力目標推進委員会、3研究部、校内教外部会、学年会が有機的につながり、学力向上の取り組みを進める組織が確立されてきた。

また、普段から、子どもたちの話をよくし、指導や授業の取り組みを学年を超えて交流しあっている。配慮を要する児童については、全体で指導にあたる等、「担任一人で悩まない、みんなで考える」体制づくりを行ってきた。それらが、子どもたちが落ち着いて、学習できることにつながってきた。

(課題)

推進体制の確立により、取り組みが進みつつある。今年度以降は、よりこれらにとりくみを深化させ、進めていくことが課題である。具体的には、

- ・学習事項の基礎基本の定着
- ・【白川スタンダード】のより一層の定着

- ・授業改善のための、研究と実践、評価。とりわけ、全員が考え、活動し、深まる授業(共同学習)の実践。
- ・読書活動の推進。
- ・校内研修の充実、活発化。

2 これから3年間(H23～25年度)の取組について

1 3年間の重点課題

重点課題	検証軸	25年度の到達目標
基礎基本のより一層の定着と応用力・活用力、体力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査 ・体力・運動能力調査 ・単元テスト ・小テスト ・教職員による日常観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数の正答率を高める。 ・正答率40%以下の児童の割合を減らす。 ・「学び力」の向上。 ・運動格差を減らす。 ・「学校の授業がよくわかる」という児童の割合を高める。
学習や運動に対する積極的な態度の育成	全国学力学習調査 体力・運動能力調査 運動習慣等調査 生活振り返りカード 教職員による日常観察	<ul style="list-style-type: none"> ・運動することが好きという児童の割合を高める。 ・「読書が好き」という児童の割合を高める。 ・国語や算数、総合的な学習に対して関心や意欲を示す児童の割合を高める。
自分の思いを語り、一人ひとりのちがいを認め高め合うことのできる集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・生活振り返りカード ・学校教育自己診断 ・教職員による日常観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校が楽しい」という児童の割合の増加

2 3年間の取組計画

3年間共通の計画	年度ごとの計画
<p>□主に、基礎基本のより一層の定着と応用力・活用力、体力の伸長のために</p> <p>① 研究授業・研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科学習、支援教育、人権学習など各学年1回程度の研究授業と研究発表の実施 <p>② 授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善の視点の明確化と学習ルールの確立→【教職員編白川小スタンダード】の実施、定着 ・教材、教具の工夫→ICT機器の活用等 ・国語科の授業改善 ・多様な意見交流の場の設定、共同学習の推進 ・体育授業の充実（運動量の確保と、技能を高め、楽しくて達成感を感じられる授業） ・学年会の充実による授業研究の深化 ・分割授業、習熟度別授業の推進 ・個別指導と全体指導の両立 ・専門支援員、支援サポーターによる入り込みや個別支援の充実 	<p>平成23年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○推進計画の作成 ○校内体制づくり ○授業研究会、研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・国語科（物語文）読みの研究 ・ユニバーサルデザインの授業研究 ○集団づくりの推進 ○計画の評価と見直し
<p>③ 読書活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の10分間読書の実施 ・読み聞かせボランティアによる読み聞かせの実施（1～4年） ・調べ読書の推進 ・家庭読書の推進 <p>④ 朝ピカタイムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数、国語の学習事項の定着をはかるための、反復プリント学習 <p>⑤ 白川タイムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数を中心とした補充・発展学習 <p>⑥ 家庭学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【白川小スタンダード】版学校だよりの発行、生活振り返りカードの実施による家庭への啓発 	<p>平成24年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業研究会、研修会の実施 ○計画の評価と見直し
<p>□主に、学習や運動に対する積極的な態度の育成のために</p> <p>⑦【白川スタンダード】の実施による生活規律、学習規律の確立</p> <p>⑧意欲を喚起する授業、「楽しい！わくわくする、よくわかる」授業実践の追及。</p> <p>⑨休憩時間の外遊び(全員遊び等)の促進</p> <p>□主に、自分の思いを語り、一人ひとりのちがいを認め高め合う集団づくりの推進のために</p> <p>⑩教職員の連携による全体指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級・学年の集団づくりの方針の作成、成果や課題の交流。 ・全体で児童を見ていく、育てていくための児童実態交流の促進 ・常に、児童の実態を交流する学年会の充実 <p>⑪あいさつをはじめとする、コミュニケーション能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> →児童会によるあいさつ運動、ソーシャルスキル、話す・聞く力の育成 <p>⑫自分を語り、友達のことを知る人権学習の推進</p> <p>⑬学級会をはじめとする話し合い活動の推進</p> <p>⑭まちがいを大切にする授業の推進</p> <p>⑮地域の人やいろいろな人との出会いと交流の場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> →総合学習や生活科、田植え、菊作り、昔あそび等 	<p>平成25年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業研究会、研修会の実施 ○ステップアップ計画の取り組みの検証

3 推進体制

